



Weekly News

龍ヶ崎中央ロータリークラブ

2012.11.09 No.00726

R I District 2820 CLUB 50504

会長：長友芳郎 幹事：川上 勉 連絡先：TEL 029-863-5326 FAX 029-863-5327 <http://rcrc.web5.jp>
事務所：〒305-0021 茨城県つくば市古来 1451 例会場：〒301-0857 茨城県龍ヶ崎市泉町 1592-77 (ザ・ゴルフクラブ竜ヶ崎)



本日のプログラム

【夜間例会 11.09】
創立 15 周年
国際奉仕委員会

次回のプログラム

【通常例会 11.16】
大連宣言採択
山口会員

11月の主な行事：ロータリー財団月間

第 725 回例会報告

点 鐘：長友芳郎会長
ロータリーソング：それでこそロータリー
ゲスト：なし
ビクター：なし

会長報告：長友芳郎



■本日グアムサンライズ RC との姉妹締結更新に川上幹事、横澤会長エレクトで行って参ります。時間の関係で例会を途中で失礼します

幹事報告：川上 勉



■グアム訪問
本日これからグアムへ出発します。明日3日は、事業参加、4日は姉妹クラブ締結式の予定となっております。

■長友会長方針に基づき、年次基金寄付（一般寄付）が110\$。ポリオ寄付が20\$。合計130\$（10,400円）の受付を始めます。

宜しくお願い致します。

■姉妹クラブ締結書式

奉仕の理想で結ばれた世界的連帯を通じて、国際理解、親善、平和を奨励し促進するというロータリーの目的を遂行する為に、我々両クラブはこの姉妹クラブ契約を結び相互に以下を確認する。

- ①2012年11月4日から5年間姉妹クラブとして特別な友情の絆を確立する。更新は双方の合意のもとに行う。
- ②両クラブの友情を促進し、プロジェクトや活動の連絡を密にして協力して行う。
- ③契約の期間中双方の合意できる共同プロジェクトを立

案し、最低1つのプロジェクトを実行、完了する。
この契約は、相手クラブに対して正式な通知をすることにより、いつでも変更、改訂、延長をすることが出来る。又、この契約は、相手クラブが地区内、地区外の他のクラブと同様な契約を結ぶことを妨げるものではない。
2012年11月4日 アメリカ合衆国、グアムにおいて、立会人のもとに署名する。

■Rotary Club of Golf Tournament



クリスマスドロップ、シーヘブン等の資金援助に繋がるゴルフ大会が開催され、当クラブからも参加して参りました。成績はご想像にお任せします。

■姉妹クラブ締結書式



2012.11.04 日曜日、グアム島、Hotel Nikko Guam において無事に姉妹クラブの締結式を行って参りました。



2012/11/04

本日のプログラム

私ハマったすごい本



馬場啓一会員

馬場先生には専門家であるため原稿依頼ができません。商売でいつも毎日書いていらっしやるのに、話をしてもらった上に原稿まで書いて下さいとはとても言い出せないのだ。つまり卓話を思い出しながら会報委員が記録に留めている。多少、いやほとんど話されたことと内容は異なるかも知れないがその点をご容赦願いたい。

先生の人生の原点が伊丹十三著「ヨーロッパの退屈日記」であったという。なにせ読んだことがないので論評する値しないのだが、伺い知るにはエッセイの基礎を作った作品ではないかと思う。伊丹十三といえば、我々から想像するのは、「お葬式」「マルサの女」「ミンボーの女」などでお馴染みの映画監督、以前は俳優というイメージしか持ち合わせていない。

そもそも馬場先生の本には一貫性がある。常にダンディズムや格好良さを求めているようだ。白洲次郎に関する書籍が多いのもそうであろう。幼い頃貧乏生活のどん底で生きて来た私にとって想像もつかない異物であるが、そんな環境にあった人々をととても羨ましく思う。

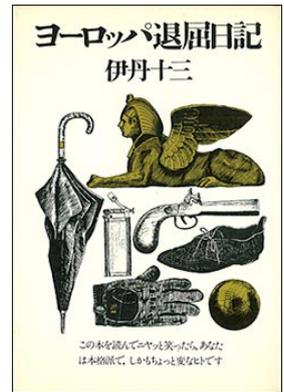
話が逸れてしまったが、この「ヨーロッパ退屈日記」のエッセイは、これまでの話を聞いて現在でもとても興味がある。読んでみてもきっと新鮮さを感じるだろう。私は欲しいものは即座に求めたい性分なので、早速、電子書籍で検索してみたが残念ながら何も応答が無かった。結局、Amazonで購入。気になったので馬場先生の「ザ・ヴォイス フランク・シナトラの人生」も購入した。

エッセイは私も好きだ。なにせ、ひとつひとつの区切りがとても短くて歯切れが良い。最近、司馬遼太郎の「坂の上の雲」文庫本8巻を読んで、(途中で何度も後悔の念に囚われ挫折しそうになった)しばらく、長編小説には長期休暇を頂いている状況だ。その点、エッセイはとても受け入れ易い。きっと、伊丹十三も処女作であることも、その点が大いに影響しているのかも知れない。確か1960年当時であることから、外国旅行であっても珍しく、ましてヨーロッパのロンドン、パリときたら見るもの聞くものすべてが新鮮でカルチャーショックを受けるのは当然だと思う。それを、みたまま、感じたままを記録し本にするという発想も当時としては斬新的な手法ではなかったかと思う。そこには、山口瞳という一人の小説家を無視することはできないのだと思うが。

では、馬場先生の求めている格好良さはとどんなものだろうか。先生著の「人間の品格」を読み始めすぐに挫折してしまった一人として、まず、外見から取り入るのは仕方がないことかなあと思う。あの人のようになりた

いとか、ああいう風になりたいとか思わなければ次のステップへ向かうことができない。そこに共感するのは自分にはない憧れとでもいうかそういう夢のある存在であろう。それはそう簡単に会得できるものではない。永年培ったその家の家風、環境、人財、蓄財等、色んな条件が作用して出来上がるものであって、そう簡単に身に付き自然に具わっているものでもないからだ。

先生が日刊ゲンダイの切り抜きを配布してくれた。この「ヨーロッパの退屈日記」から一番学んだことは、いろいろ出てくるアイテムそのものではなく、家屋敷を含めてそのアイテムを使う背景まで見合っていないとイカンそうである。ここは私も共感できる所である。急に大金を掴んだにわかの成り上がり者が、いくら表面だけを金で買って取り繕っても、永年培った文化や本人の生き方の経験と蓄積はお金で買取することはできず、反って不自然さを露呈することとなり笑い者になってしまうに違いない。即ち、そこをクリアし意識せず自然に具わっていないと男の格好良さは滲み出て来ないのである。



その点、白洲次郎は、ハーフの男性かと思うほどの風貌、グレンブルックやベントレーを乗り回す、カメラはライカ、イギリス留学経験あり、英語ペラペラ、家は破産しても豪華、伯爵家正子との結婚。真似できないのが英国風マナー、洋服の着こなし、ダンディーさ、我が途を踏襲する意地の強さ。外国人と同等に堂々と渡り合える気迫を持った人物。男の中の男。とても格好良い。

■出席状況

会 員	16 名	出席率	62.50 %
出 席 者	7 名		
出席免除者	2 名	Make-up	3 名
(定款第9条3節a)	1 名	椎塚・荒木・米島会員	

■ニコニコボックス (目標額 600,000 円)

本日 5 件 10,000 円 (本年度累計 183,000 円)

秋田さま:何時も川上君に御願いして前回メイク時にコーヒー一只飲みました。
海老会員:馬場先生宜しくお願ひ致します。
川上会員:姉妹クラブ締結行って参ります。
長友会員:馬場先生本日はよろしくお願ひ致します。グアムへ出発のため早退します。
横山会員:馬場先生急な要請で申し訳ありません。

例会の欠席は、水曜日 AM:10:00 までに 城出 SAA
TEL 0297-66-3258 に連絡して下さい。